

## 第74回セメント技術大会 講演要旨原稿執筆要領

### 1. 講演要旨の体裁について

- (1) 講演要旨は、和文または英文で記述する。
- (2) 冊子版は白黒印刷、CD-ROM版はカラーで掲載されます。
- (3) 原稿は、A4判(幅210mm×高さ297mm)、横書きのものを2枚とする。余白は、上余白; 25mm、下余白; 25mm、左余白; 17mm、右余白; 17mmとする。
- (4) 原稿は1ページ当たり、25字×48行×2段組とする。ただし、1ページ目の1行目から9行目までは1段組として題目や著者などを記述し、10行目より2段組として本文を開始する。
- (5) フォントは、サイズを10.5ポイント(講演題目のみ14ポイント)カラーをブラックとし、字体は以下の通りとする。なお、PDFに埋め込みのできないフォントは使用しないこと。  
見出し\*   ✓   ゴシック体(MSゴシックなど)   ※大見出し、中見出しのみ  
本文       ✓   日本語 明朝体(MS明朝など)  
              ✓   英数字 Times New Roman、Times
- (6) 文章は簡潔に、原則として常用漢字および現代かなづかいを用い、用語については文部科学省学術用語、JISおよび関係学会等の用語辞典から選択することが望ましい。
- (7) 文章の区切りには、全角の句読点「、」「。」を使用する。
- (8) 単位や記号および英数文字は半角を用いて記述する。また、単位はSI単位系を標準とする。
- (9) ギリシャ文字およびローマ数字は、半角英数字フォント(Times New Romanなど)を用いて記述する。  
例       α、β、γ、I、III、VI、i、iii、vi など

### 2. 講演題目および著者の表記方法について

※ 版下原稿の作成時に、講演申込書の記載内容を差し込みます。

- (1) 講演題目は、1行目および2行目に、左詰めで全角3文字を空けて、14ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (2) 著者名および所属は、4行目から7行目に、10.5ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (3) 所属は、△△株式会社 △△部、△△大学 △△学部、△△大学 大学院△△研究科まで記述する。連名者の所属が、上記の著者と同一の場合は、所属の記述を省略する。
- (4) 著者名は、姓と名の間スペースを入れずに記述する。
- (5) 1講演当りの連名者数は、講演者を含めて4名以内とし、講演者名の前に○印を付ける。

例 (□は全角スペースを示す。)

1行	□□□ クリンカーの焼成条件と水和・・・	サイズ 14pt
2行	□□□	サイズ 14pt
3行		サイズ 10.5pt
4行	豊島大学 工学部	著者 1
5行	セメント太郎	著者 2 (講演者)
6行	○ 利根太郎	著者 3
7行	桜橋建設株式会社 技術研究所	著者 4
8行		空欄
9行		空欄
10行	1. はじめに (2) △△△試験	本文 (2段組)
	.....	.....

3. 見出しの表記方法について

- (1) 大見出しと中見出しはゴシック体（MS ゴシックなど）で、小見出しは明朝体（MS 明朝など）で記述する。
- (2) 見出し番号は全角で記述する。
- (3) 大見出しは区分毎に 1 行を空けて、中見出し・小見出しの場合は行を空けずに、新しい見出しに入る。

例

<p><b>1. まえがき</b>          ○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○          ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。</p>	← 1 行あける
<p><b>2. 実験の概要</b>  <b>2. 1 使用材料</b>          ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○。</p> <p><b>2. 2 試験方法</b>          (1) ○○○○試験          ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○。</p> <p>(2) △△△試験          ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○。</p>	← 1 行あける
<p><b>3. まとめ</b>          ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○。</p>	← 1 行あける
<p><b>【参考文献】</b>          1) ○○○○:○○○○○、○○○、p.○ (2009)</p>	

4. 数式・化学式の表記方法について

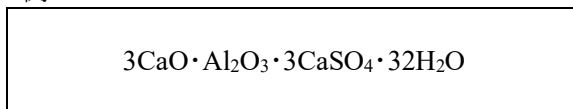
- (1) 本文と区別ができるように、数式の上下で 1 行ずつ空ける。
- (2) 左端から全角 4 文字を空けて、数式を記述する。
- (3) 数式の右端に、原稿全体にわたる数式の通し番号を括弧付きで記述する。その際、数式末尾から数式番号までの点線は付けない。
- (4) 本文中での引用は、式 [1]、式 [2]・・・のように記述する。

例 (□は全角スペースを示す。)

<p>・・・を以下の式[1]に回帰した。</p>	←1 行あける
<p>□□□□ <math>y = \sqrt{ax} + b</math> [1]</p>	←1 行あける
<p>□□□□ここに y : ○○指数          □□□□ a : 実験定数          □□□□ .....          回帰するにあたり・・・</p>	←1 行あける

- (5) 化学式は半角で記述する。

例



5. 図、表および写真の表記方法について

- (1) 白黒印刷で明確に判読できるよう鮮明に作成する。
- (2) 図・表・写真中の説明は、和文原稿の場合は和文、英文原稿の場合は英文で記述する。
- (3) 本文と区別ができるように上下1行ずつ空ける。
- (4) 図・表・写真の番号は、それぞれ独立した通し番号を付ける。
- (5) タイトルおよび図表番号は中央揃えで、表の場合は上端、図および写真の場合は下端に記述する。
- (6) 本文中での引用は、図1、表1、写真1(英文は、Fig. 1、Table 1、Photo. 1)のように記述する。

例

に使用した材料の化学的性質を表1に示す。 <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: center; margin: 0;">表1 使用材料の化学的性質</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 5px 0;"> <tr><td style="width: 25%; height: 15px;"></td><td style="width: 25%; height: 15px;"></td><td style="width: 25%; height: 15px;"></td><td style="width: 25%; height: 15px;"></td></tr> <tr><td style="height: 15px;"></td><td style="height: 15px;"></td><td style="height: 15px;"></td><td style="height: 15px;"></td></tr> </table> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> これらの材料を使用して、○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○									の結果を図1に示す。 <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 5px 0;"></div> <p style="text-align: center; margin: 0;">図1 焼成温度の影響</p> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> その結果、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

6. 参考文献の表記方法について

- (1) 前段より1行空け「【参考文献】」を記述し、改行した後に文献の詳細を記述する。
- (2) 文献番号) 著者名<sup>※1</sup>: 論文題名、雑誌(書)名、巻号、発行所<sup>※2</sup>、頁<sup>※3</sup> (発行年<sup>※4</sup>)の順に、文献の詳細を記述する。
- (3) 本文中での引用は、<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>のように片カッコの文献番号を上付きで記述する。

例

・・・らの結果<sup>1)</sup>と同様の結果となった。

**【参考文献】**

1) 月山一夫、羽黒次朗：セメントの種類と○○に関する研究、セメント・コンクリート論文集、No.○○、pp.23-29(19○○)

2) 湯殿満男ほか：○○装置を用いた硬化コンクリート中の△△組織測定方法、セメント・コンクリート、No. △△、p.63(20△△)

← 1行あける

- ※1 著者名は、姓名の間にスペースを入れない。  
著者が複数名いる場合、著者間の区切りは読点「、」を使用する。  
著者が3名を超える場合は、筆頭著者以外を「ほか」として省略してください。
- ※2 参考文献が書籍の場合は、発行所を記述する。
- ※3 引用する頁が、1頁の場合は p.○○、複数頁の場合は pp.○○-○○と記述する。
- ※4 発行年は、月日を入れず両括弧で括り記述する。

7. 問合せ先

ご不明な点は下記までお問合せください。

一般社団法人セメント協会 研究所  
 技術情報グループ セメント技術大会 担当  
 TEL 03-3914-2692 FAX 03-3914-2690  
 MAIL jca\_event@jcassoc.or.jp

以上